

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	商 学部	身分	教授
氏名	羽田 尚子		
NAME	Shoko HANEDA		

1. 研究課題

（和文）イノベーションの阻害要因：企業個票データによる分析

（英文）Understanding obstacles for innovation: Empirical look at Japanese Innovation Survey

2. 研究期間

2 年間（ 2017-2018 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）製品開発プロジェクト管理法の1つに、アイデアから事業化までの過程を複数のステージに分割し、ステージ毎に設けた基準で選別を行い、事業化の候補となるプロジェクトを効率的に絞り込む方法がある（以下、ステージ型管理と記す）。プロジェクトの中止・継続は、ステージ型管理の過程で技術面・商業面で実現性の高いプロジェクトと低いプロジェクトとの選別があったことを意味しているのかもしれない。本研究は、文部科学省科学技術・学術政策研究所「全国イノベーション調査」の企業個票データと信用調査会社の財務・企業情報を接合し、過去3年間の研究プロジェクトの中止・継続の決定が、新製品の実現確率・新製品の売上高比率を高めているのか検証している。分析の結果、プロジェクトを中止・継続した企業はそうでない企業と比べ、新製品の實現確率が約7%高く、売上高比率も約2%改善していた。プロジェクトの中止・継続の要因分析では、研究開発集約度および多様な外部知識の活用が正で大きなインパクトを有していた。負債比率は研究プロジェクトの中止・継続にマイナスに作用し、資金制約のある企業では、継続プロジェクト数を減らした小規模なイノベーション活動を行う可能性が確認された。これらの結果から、研究開発投資や組織外の知識などのイノベーション・インプットを増やすことができる企業ではステージ型管理を実施する傾向が高く、この管理法の実施により、新規性の高い製品を実現しやすくなっていると推測される。

（英文）

This empirical study examines the impact of a staged approach to management of innovation projects. This approach is referred to as a “screening funnel” or a “staged gate.” If firms adopt the staging approach to innovation projects, some project lay abandoned and/or lay stagnant at each stage. Under these conditions, the present study identifies firms that have abandoned and/or still have ongoing projects using a unique firm-level dataset constructed from the 2015 Japanese National Innovation Survey (JNIS 2015). The results show that compared firms that did not implement staging of projects to those that employed staged project management and found that staging significantly improved innovation performance and degree of the radicalness.